

□議員名：松尾数則

1 産学官の連携推進について

論点	産学官連携の形態、分野について考えを聞く。
回答	産学官連携の取組として、大学と両商工会議所との間で山陽小野田市産学官連携協議会を設置した。大学と地元企業による共同研究等により産業力を強化し、雇用の拡大や定住人口の増加につなげ、大学から企業への技術移転を促進し、新技術の開発や、新産業の創出につながる環境整備を図りたい。

論点	大学公立化による今後のあり方を聞く。
回答	大学の教育と研究の成果を人材育成と地域貢献につなげたい。

論点	相談業務等、地域連携センターの活動は順調に進行しているのか。
回答	大学は今や象牙の塔を出て、市民目線で、企業や社会の課題に立ち向かっていく必要がある。アプローチ不足は認識しており、今後ホームページの活用、大学教員の研究シーズ集の改訂、配付、技術相談会の実施方法の改善をしていく必要がある。

論点	インターンシップの状況を聞く。
回答	大学生と企業との接点として、双方に就職活動上有益な体験の場であり、インターンシップに参加する学生は増えており就職活動により影響を与えている。成果として就職内定率はここ数年100%である。

論点	大学のシーズと企業のニーズをマッチングするコーディネーターについて考えを聞く。
回答	コーディネーターは来年度に検討を考えている。技術知識、経営意識、ベンチャー精神があり、大事なことは、地元に対する一体意識が必要で、そういう方を探したい。

論点	私立大学から公立大学に変わり教授を始め指導者の教育に変化はあるのか。
回答	公立化になり公正公平を旨として、研究の成果、教育に関して教職員に指導している。

論点	山陽小野田市の今後の行動は。
回答	公立化に向けた市の期待に応じて、やがて学校関係者を含め約2,000人近い規模の大学村があそこにある。市民の期待に応じてくれると考えている。

2 新幹線厚狭駅の利活用について

論点	維新150年祭、デスティネーションキャンペーンは新幹線厚狭駅にさくら・ひかり号停車の良いチャンスである。利活用についての考えを聞く。
回答	厚狭駅停車の新幹線については以前からJRに要望している。利用実績から難しいとの回答であるが、まずはこの利用実績を上げて広域観光振興に伴う誘客増を図り、今後も継続してひかり・さくら号の厚狭駅停車を求めていく。

論点	長門市は星野リゾートの再開発、元乃隅稻成神社等活気にあふれている。長門市、美祢市とタイアップし玄関口の厚狭駅にひかり・さくら号を停車したい。
回答	美祢市、長門市の観光における広域エリアというふうに捉えたときに山陽側から日本海側に抜けるという意味で、厚狭駅というのは非常に重要な起点である。さまざまな取組を通して、厚狭駅の存在意義を高め、利用拡大につなげたい。

論点	新幹線各駅の利用実績を聞きたい。
回答	年間の利用者数は新下関駅179.1万、新山口駅266.2万、徳山駅244.3万、厚狭駅55.7万、新岩国33.6万である。

論点	新幹線厚狭駅にさくら・ひかり号を停車させるためにはトップセールスが必要である。
回答	新幹線厚狭駅の利用拡大については、早過ぎるとは思っていない。市からJR西日本に対して一石を投じておく必要がある。広島支社長が挨拶に来られるのでその機会も利用したい。1月には私自身が広島に出向き、厚狭駅の利用拡大について波状的に繰り返す必要がある。